大阪市立科学館研究報告 28, 185 - 188 (2018)

平成29年度サイン及びデザインの実施報告

永 原　達 哉 *

概　要

平成29年度、サイン委員会で実施した各種ポスター、館内での表示サイン、また各種プログラムのポスターや、ショップ関連商品のデザインなどの報告を行う。

1. はじめに

ここ数年安価なプリンターや手軽にデザイン等が可能なソフトが販売され、個人でもハイレベルな印刷物の製作が可能になっている。例えば年賀状などの季節のグリーティングカード、思い出などを綴るアルバムの編集などなど。しかしこれはあくまで少ない数量（100枚程度）に適しているが、1種類あたり少なくても1，000枚以上を製作する大阪市立科学館では、個人仕様のプリンターや紙ではコストがまったく合わない。また既存の印刷会社にデザイン、編集などから依頼しても製作コストは高額になり、予算を圧迫する。そこで有益な存在として“印刷ネット通販”がある。

2. 印刷ネット通販と一般の印刷会社

2-1. 双方の使い方

先ず一般の印刷会社について。ここでいう一般とは、支店、プリントショップなどが街中に存在し、対面で印刷の依頼ができる会社を指す。街中でよくみかけるプリントショップなどの料金は確かに安く、直接依頼するので、依頼する側の安心感などはネット通販に比べては高いだろう。また本日中に仕上げたいなどの特急依頼など料金より時間を重視する場合でもその存在は効果的ではある。また冊子や特定の紙種、インクの種類などはネット通販より充実していることが多く、場合によってはネット通販より安い場合がある。

次にネット通販について。一般の印刷会社と比べて料金が安いことである。一般の流通で見られる紙種と印刷方法は充実している。また納期も特急で0日対応（ただし入稿時間の制限がある）可能な会社もあるので、一般の印刷会社との差がなくなってきている。また数年前はネット通販でのオフセット印刷の仕上がりに少々問題があったようだが、最近ではそのような問題はないようである。ただし、ネット通販では、基本的に文字校正、色校正はなし（希望すると別途追加料金がかかる）、入稿データに不備があると指摘されるだけで修正は入稿者がしなければいけない。また入稿してからデータ確認まで少し時間がかかるために、急ぎの印刷には適していないだろう。

2-2. 適材適所

大阪市立科学館では印刷の仕様によって2－1のように印刷会社を選んでいる。各所から当方に印刷物製作の依頼がある場合、基本的にはネット通販を使う場合が多く、また特殊技法での製作などでは当該技術を得意とする会社へ依頼する。また館内掲出用のサインは館内の大型プリンターで出力できるものを基本サイズに設定している。

3. チラシ、ポスターなどの製作

平成29年度に当方で製作したチラシまたポスターを報告する。

3-1. サイエンスショー

動く？動かない？チカラの実験！

ショーの中で“だるま落とし”が登場するのでロゴ

*nagahara@sci-museum.jp

にだるま落としをイメージしたデザインにした。またテーブルクロス引きをメインビジュアルとし、グラスの一部に担当の小野学芸員を配置した。

むらさきキャベツの大実験！

メインテーマであるむらさきキャベツが実験によっていろいろな色に変わったさまをデザインした。難しかったのはキャベツの軸の部分が変色しないのでもとの白色のままで、葉の部分だけの色を変える処理である。

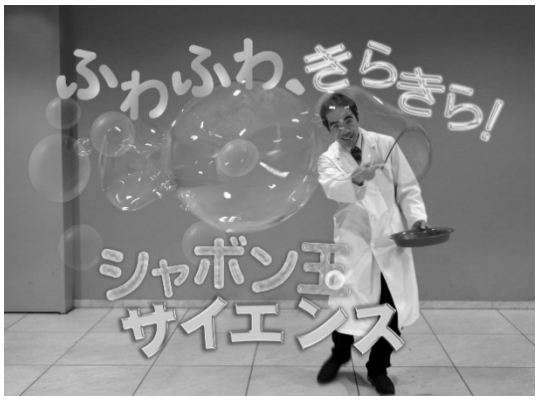
マイナス200℃のせかい

デザインのポイントは液体窒素がもたらすマイナス200℃のすごさを表現することである。まず花がバラバラになる様をくずれる前と後の花で表現した。また白いけむりはほとんど合成である。理由はなかなか満足のいくだけの量が出なかったのでインパクトのあるデザインにした。

虹でじっけん、光のせかい

このサイエンスショーを担当する長谷川学芸員が撮影した虹を生かしたデザインに心がけた。“虹でじっけん、”の部分は7色にするため配色したが、“で”は“光”と呼応させるためにあえて7色からはずした。

ふわふわ、キラキラ！　シャボン玉サイエンス



ポイントは大きなシャボン玉をいかに美しく撮影できるかだった。何十枚も撮影した中からこれを採用した。ロゴは“ふわふわ”“キラキラ”という表現のイメージを色や形で表現した。

3-2. プラネタリウム
秋の夜長に月見れば

科学館にはこのような紅葉する木々はない。そこであえて現実味のない処理をほどこしデザインした。また“長”の椅子に座って月を見る担当の江越学芸員を配置した。

はるかなる大マゼラン雲

ビジュアルとしは、実体がわかりづらい大マゼラン雲を拡大した画像を配置そしてそれは“はるか”彼方にあるのだという思いを込めて表現した。

3-3. イベント関連

プラスチック×アートショップ

岳川学芸員企画恒例のプラスチック・アーティストとのコラボイベントのポスターである。作品を全面に配置し、女性2人のコラボイベントなので柔らかなイメージでデザインした。

ノーベル賞展

ノーベル賞の起源であるアルフレッド・ノーベルと日本人初のノーベル賞受賞者である湯川秀樹、時代の流れを表現した。

にじのせかい

小さな子どもの手に映る虹。子供の顔は映っていないが、楽しい気な顔をしているのだろうなぁと思いをデザインした。

サイエンスガイドの日

国際ボランティアデーを記念してこの時期に実施しているのがこの「サイエンスガイドの日」である。展示場とそこで楽しく活動するサイエンスガイドのみなさんがイベントで待っていますというイメージでデザインした。

We are デモンストレーターズ 2017

科学デモンストレーターの活動が始まって今年で10年。それを記念してデザインした。

4. 最後に

デザインは例えると料理と似ている。つまり素材の性質や特徴を理解しないと美味しい料理を作ることは難しい。またその素材をどのように調理して欲しいかも理解していないとかけ離れた料理をしてしまう恐れがある。デザインをする上で大切こと、それは希望をしっかりとうかがい、提供される素材（時には私が撮影など行い素材を作る場合もある）の特徴をしっかりと理解することである。もうひとつ大切なこと、それは固定概念を捨てることである。思いついたアイデアをどんどん形にしていき、その中で適切なデザインを見つけ出すことも大切なことである。